

# 令和4年度 学校関係者評価委員会のまとめ

## 1 学校関係者の評価

【四国中央市内小・中学校 共通項目】		関係者 評価	評価シート結果(%)				肯定 評価
A : 100～86% B : 85～71% C : 70～56% D : 55～0%達成			4	3	2	1	
1	学校の教育目標の達成に向けて具体的な目標を設定し、校長を中心に組織的に学校運営や教育活動を行っている。	A	74	26	0	0	100
2	自己評価結果を分析して具体的な改善方策を実施し、課題が改善されている。	A	40	60	0	0	100
3	教育活動や評価結果に関して、分かりやすく情報提供できている。	A	74	13	13	0	87
4	保護者、地域住民は、学校運営に積極的に参加・協力している。	B	20	60	20	0	80
5	学校関係者評価委員会は、適切に運営されている。	A	67	33	0	0	100
【学校独自の評価項目】							
6	教職員は、生徒のために意欲的に諸活動に取り組んでいる。	A	60	40	0	0	100
7	安全教育や防災教育は適切に行われている。	A	27	60	13	0	87
8	学校の施設・設備は整備されている。	A	20	67	13	0	87
9	学校は、いじめの早期発見・再発防止に積極的に取り組んでいる。	A	26	74	0	0	100
10	校訓『挑戦・実行・思いやり』の浸透は進んでいる。	A	33	67	0	0	100

## 2 学校運営協議会で出された意見等

- ・ コロナ禍の中、PTA活動が停滞しており、学校への関わりをいかに基にもどし活動に参加させるかが課題である。行事等でPTA活動への参加を呼び掛け、参加していただくか具体的な解決策が必要である。
- ・ コロナ感染症が落ち着き、今まで無理だったことが可能になり、当たり前が当たり前でないことを学び、心と体の成長に期待している。
- ・ 生徒の読書に課題があるように感じる。読み聞かせの活用をしてみてもどうか。そうすることによって中学生も、読書に興味を持つ生徒が増えてくるのではないかな。
- ・ この地域は将来のビジョンが感じにくいと思います。勉強することで、どうなっていけるかを子どもたちに伝えていって欲しいと思います。
- ・ 家庭学習、挨拶、返事など基本的な生活習慣、学習習慣などについて、小学校からの積み重ねも必要なことである。小中で基本方針（系統性）等をすり合わせていく必要があると思います。
- ・ 学校行事に参加させていただき生徒の様子を見て、落ち着いて生活できていると感じました。先生方の努力の賜物だと思います。コロナ禍も少し落ち着き、地域との連携も戻りつつあり、さらに幅が広がっていることをお伺いして、これこそがコミュニティ・スクールの目指すところだと感じました。子どもたちが地域に元気を与える活動をリードしていただきます。

## 3 意見や具体的改善策等の提言

### (1) 学習について

- ・ 家庭学習が不十分である。保護者・生徒はほぼ同じ意識だが、教師の意識とは開きがある。
- ・ 準備物や忘れ物、宿題忘れがある現状と、家庭学習の不十分さが同じ傾向にある。
- ・ TV、ゲームパソコン、携帯電話等の使用時間が長く、学習にも身が入らず家庭学習が不十分である。
- ・ 家庭での過ごし方を含め、家庭学習の習慣や時間が影響していると考えられる。
- ・ 「生徒主体の分かりやすい授業を行っている」の結果を見ても先生方の授業での工夫や取組は理解されているが、本校生徒の平均学力は全国平均から見ても高くない。
- ・ 楽しく授業はできているが知識が身につけていない。
- ・ 図書室の利用について改善を行ってきたが、今一度読書に対する関心を向上させる手立てが必要である。

### (2) 生活について

- ・ 自転車の乗り方や、地域での過ごし方については一部の生徒に考えを改める必要がある。今後も見守り活動や声掛けを行うと共に、機会を捉えて注意喚起を行っていく必要がある。
- ・ 生徒は、家庭で学校のことを話題にして会話できている生徒が多い。しかし、話せていない20%の生徒について気を付けなければいけない。家庭との連携の強化や教師との関係、友人との人間関係を含め、悩みがいつでも相談できる関係づくりやシステムを考えていかなければいけない。

- ・ いじめ、人間関係のトラブルについては1年間通じて少なからず起こっている。他にも本当はいじめ等の被害にあっている生徒がいないか心配である。いじめをなくす取組を充実させてほしい。
- ・ 家庭・生徒と教師との意識のギャップは常にあるが、学校行事以外でも地域の人たちが、生徒や教職員と関わることができる行事等があれば、学校へ出向き、生徒の様子を知ってもらおうことにつながり、同一歩調で子どもたちを見守る力につながるのではないかな。
- ・ 気持ちの良い挨拶についても家庭学習と同じ傾向にある。学校における挨拶をしている生徒を見ていると、先生が挨拶をしてそれに返すような挨拶がほとんどで、自分から先に積極的に挨拶ができていた生徒は多くない。気持ちの良い挨拶とはどのようなものかの学習が必要である。
- ・ 「はい」の返事についても同じ傾向にある。家庭でそんな習慣はあるのだろうか。返事どころか反応すらしめない生徒もおりさみしくなる。コミュニケーション能力の低下は喫緊の課題である。コミュニケーションが上手くとれず苦しんでいる生徒も増えてきており、コミュニケーションツールの変化による影響は大きい。

### (3) PTA 活動について

- ・ PTA球技大会や市駅伝競走大会は参加者が少なく、実施することができなかった。保護者への情報伝達や協力依頼を工夫すれば、地域や家庭との関りが充実するきっかけになるのではないかな。
- ・ コロナ禍の中、人と接する活動を制限してきたが、ふれ愛地域体験講座のおかげで地域や地域の人から学ぶ機会ができた。これからはコロナ禍前の状態に徐々に戻ってくる。
- ・ 学校運営協議会では、地域の役員の皆さんが真剣に生徒のためになることを考えてくださっており、来年度以降も新しい取組を立案して下さった。
- ・ PTA活動も生徒のための活動である意識が低くなってきており、役員を決めるのも大変になってきている。今後は学校運営協議会とPTAとが上手く絡み合った、温かい雰囲気の中で子どもとの関わりができれば、温かい優しい子が育つと思う。
- ・ コロナ禍で限られた活動ではあったが感染症対策をした上で、生徒のための活動をすることができた。今後も新しい生活様式の中で、できることを生徒のため実施していくことが大事である。
- ・ コミュニティ・スクールに関しては、2年目であったが、積極的に参加していただける方が多く、学校運営協議会の委員が集まり、今の北中学校について有意義な話し合いができた。
- ・ コミュニティ・スクールに関して生徒、保護者、地域に情報をどんどん発信していき認知してもらうことから始めなければいけないのでは。また、学校運営協議会と連携した、ボランティアの参加者を募ってみてはどうか。

## 4 次年度の取組

### (1) 学習について

- ・ 1人1台端末を朝学習や家庭学習で有効活用し、生徒一人一人の進度に合わせたドリル学習を充実させていく。
- ・ 生徒自らが考え、協働する学習を通して、自らの考えを広げ深める学習を充実させるために、ペア学習やグループ学習等の学習形態を工夫して、改善に取り組む。
- ・ 小テストや振り返りテストを定期的の実施し、基礎・基本の定着を図る。
- ・ 家庭との連携を密にし、宿題や準備物等の忘れ物を少なくする。

### (2) 生活について

- ・ きまりをよく守っている生徒が多い。
- ・ 生徒会活動（委員会活動）を充実させ、自治の意識を高めていく。
- ・ 1人1台端末の有効活用を図るために、ネットモラル等の意識を生徒一人一人が高められる取組を充実させる。
- ・ いじめについては、定期的なアンケートや相談活動を実施し、早期発見・早期対応につなげる。

### (3) PTA 活動について

- ・ 現在は1年生保護者の全員評議員制をとっているが、たくさんの人数がいるからといって充実した活動ができているとは限らない。役員の決定方法や評議員委員の人数の精選等、組織について見直していく。
- ・ コミュニティ・スクールについては2年目を迎える。コロナ禍の中ではあるが、更に話し合いを進め、具体的な取組ができるようにしていく。
- ・ コミュニティ・スクールに関してホームページや通信の発行を通じて情報を発信していき、家庭・地域と共に歩む開かれた学校を目指していく。